

宇陀市松山の思い出ばなしから生まれる交流を、まちづくりへ活かす

茶呑みばなしの会 世話人代表 森本 陽子

1. 活動方針・目的

奈良県宇陀市は奈良盆地の東側に位置する宇陀山地にあり、歴史的町並みとして知られる松山地区は、一級河川宇陀川と古城山との間に展開している。宇陀松山は交通の要衝として、戦国時代から城下町、近世以降は商家町として栄えた町並みで、江戸時代から昭和初期にかけての建物が数多く残っている。平成18年7月5日、この歴史的町並みの価値が認められて国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたところである。

町並みが素晴らしいことは誰もが見て感じることである。その町並みを守り伝えていくには、カタチだけを残しても意味がないと多くの人が思っていることであろう。よりよい歴史的町並みの維持活用には、地域住民の知恵と記憶が欠かせないと考え、「楽しかった思い出からまちづくりのヒントを得よう」と思い立ったのである。

茶呑みばなしの会はこうした考えに基づいて、宇陀松山での暮らし方を知るところを目的として平成16年2月に活動を始めた会である。ほぼ毎月、その時々気候や行事に絡んだ思い出を参加者から聞き、まちづくりや家作りのヒントになる情報を集めている。

参加者の多くは地元住民で、これらの人々は来訪者との交流も望んでいる。そのため、歴史的町並みとまちづくりの拠点施設、千軒舎の和室を利用して来訪者と交流するきっかけづくりを視野にいれて活動をしている。



松山地区の歴史的町並み(上新)

2. 活動内容

活動日は、地元の祭りがある7月・10月を除いた第3日曜日と決めている。(平成19年は第3土曜日に変更した)まちづくりセンターにて世話人がそのときのお茶やお菓子(大宇陀ならではのもの、または旅行の土産など)を参加者に振る舞い、それらをつまみながら談笑することが基本である。時折、世話人の発案により桧皮細工や木を使った遊びなど、体験系のメニューを用意することもある。

あるとき、地元住民が古写真を持って参加された。松山町役場前の道路舗装工事竣工記念の写真、お座敷遊びの様子等があり、昭和初期の松山地区をリアルに知ることができた。また、人づてに聞いて参加された地元住民は、歳末の情景を楽しげに語りあった後「気持ちよくおしゃべりができ、松山が好きという気持ちが一段と強くなった」と喜んで帰っていかれた。

参加者は直接声をかけて集めるが、稀にHPを見て参加する方がいる。飛び入り参加は更に稀だが、近年は「宇陀松山が好き」「是非この地区に住みたいかどうか」という相談を受けるようになった。



第1回:お祝いに駆けつけた隣市の方が「お椀と玉」という伝統芸(手品)を披露。



造酒屋の大将、むかしは絞油業もやっていたと身振り手振りを加えて話す。

3. 今後の課題等

茶呑みばなしの会は、今年で活動3年目を迎えた。連絡手段は特になく、覚えていたら千軒舎に寄る、というスタイルになっている。当初はそれでも4~5人は集まって談話できていたのだが、近年は会があること自体を忘れることも起こっている。

また、居住希望者の相談窓口としての役割を帯びてきており、そろそろ松山地区に暮らすための知恵を形にしたほうがいいのでは、という声があがっている。しかし世話人が二人しかおらず、なかなか前進しないのが現状である。

この会の原点は、地元の思い出話を掘り下げてまちづくりのヒントを得ることにある。場を設けて参加者を集め、談話をするスタイルは当然維持をするつもりであるが、古い記憶を持つ方々を訪ねて話を聞いてみたい、という欲が頭をもたげている。どこまでつきつめるかはまだ決めていない。急ぎ判断すべき課題である。

活動を続ける中で、「松山の記憶を語り合うことで、地域への愛着を深めることができた」「松山地区に暮らすための足がかりとして、地元の人と接する機会が持てた」「自分達の町でもこうした取り組みをやってみよう」と様々な方からのご感想を寄せていただいた。こうした声に支えられ、できることから、仲間を探しながら進めたいと思っている。



株仲間の研究をしている中学校教諭。本業は数学の先生だが郷土の歴史を熱心に調査している。



地域滞在サービスをなんとかカタチにしたいと考えるコンサルタントの方々も参加。

ちょっとここで、お茶しませんか ～宇陀松山の思い出ばなしとまちづくり～

【観光・歴史・文化】

課題名：宇陀市松山の思い出ばなしから生まれる交流を、まちづくりへ活かす

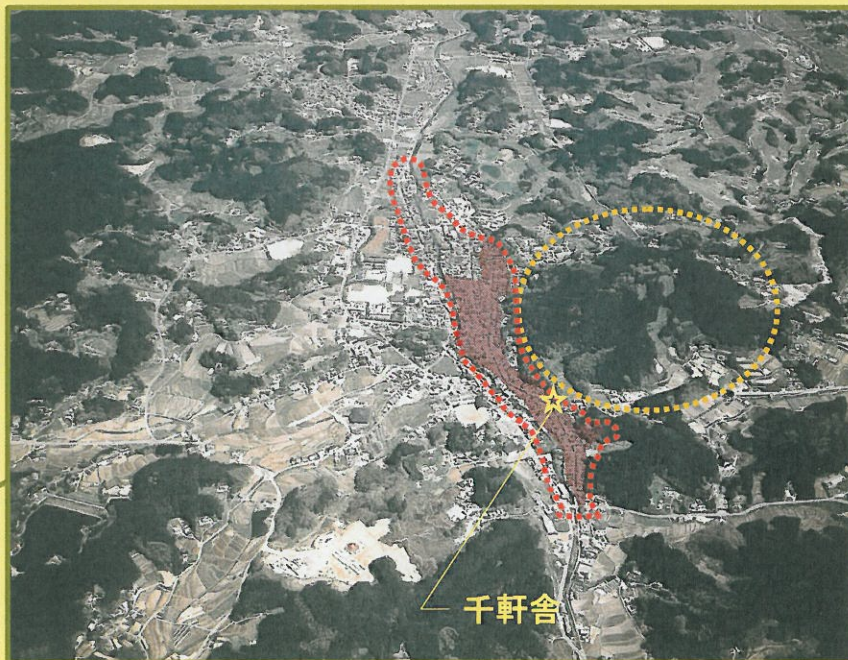
1. 松山地区について
2. 茶呑みばなしの会の位置づけ
3. 活動内容
4. これからの課題



茶呑みばなしの会 森本陽子

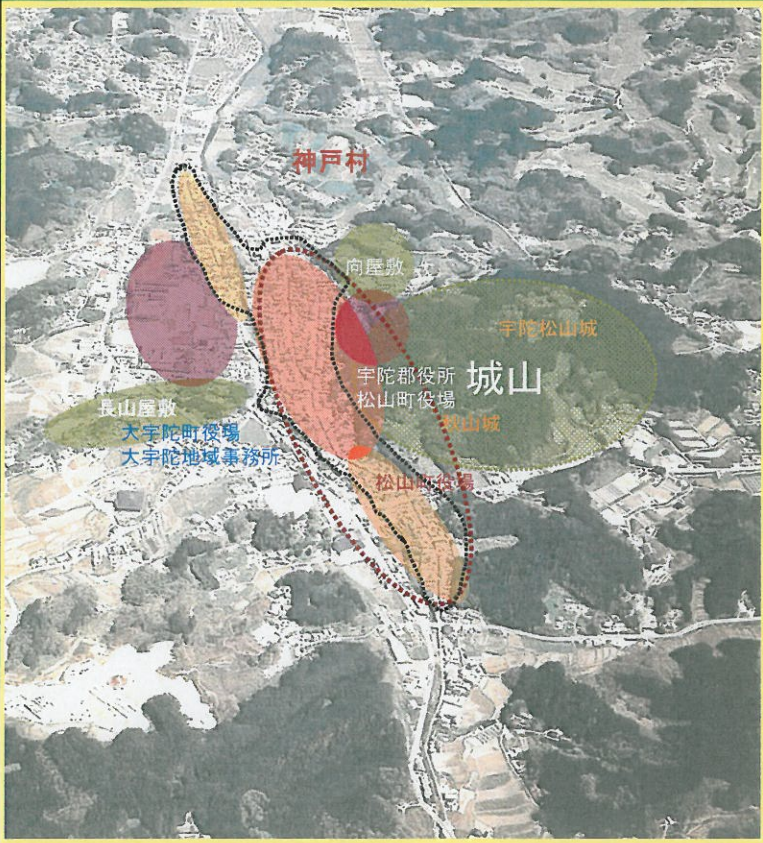
茶呑みばなしの会BLOG <http://cha-nomisuke.blog.ocn.ne.jp/>


1. 松山地区について




1. 松山地区について

松山地区の成り立ち






秋山氏の時代(中世～桃山)



豊臣氏家臣の時代(桃山)
織田藩その1(江戸前期)
織田藩その2(江戸中期)
天領の時代(江戸中期～)



近代、松山町(明治～)
現代、大宇陀町(昭和後期～)

神戸村

向屋敷

宇陀松山城

城山

宇陀郡役所
松山町役場

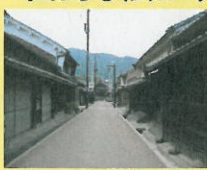
長山屋敷
大宇陀町役場
大宇陀地域事務所

松山町役場


1. 松山地区について

面的な広がり





本町通り




上町通り



下町通り



松山通り

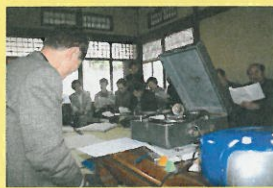
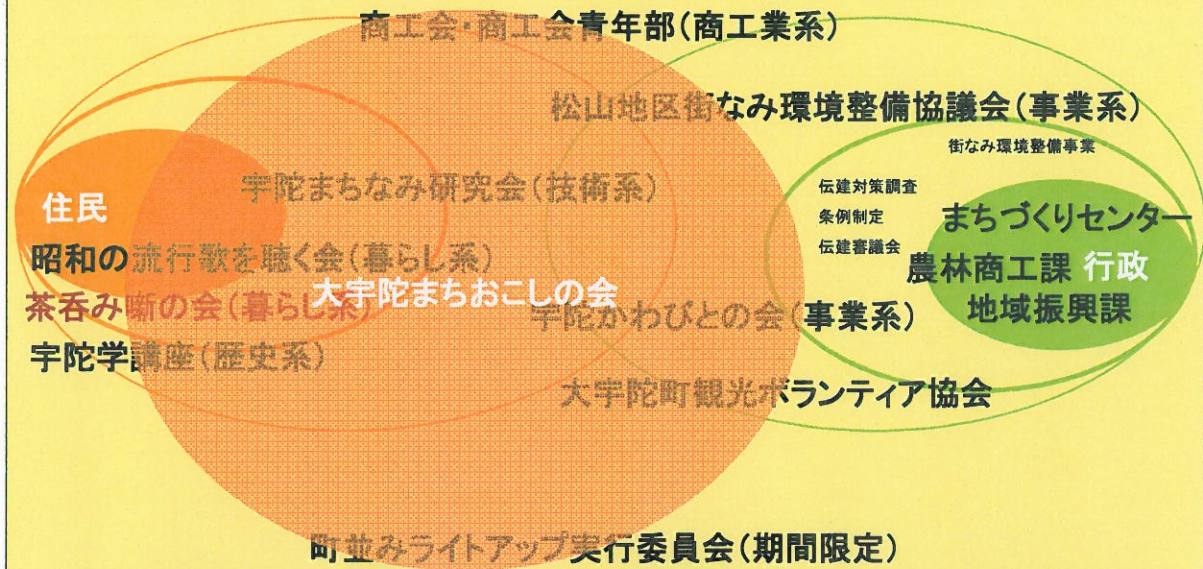



自然との調和



菓の看板(禅宗様?)

2. 会の位置づけ



流行歌を聴く会



茶呑みばなしの会



かわびとの会



ライトアップ

3. 活動内容

発足の背景 平成16年2月～



1. 干軒舎の有効活用

伝造的整備をしたモデルハウスの割に地元の利用者が少ない。…では困る。
→再生町家の空間を体験する契機づくりに

2. かつて松山にあった風景を掘り起こす

「宇陀松山の昔ながらの暮らし」を、体験者から聞きたかった。

3. まちづくりに関心がある人を引き込む

わがまちへの愛着が強い人を発掘し、まちづくりに関わってもらいたいと思った。

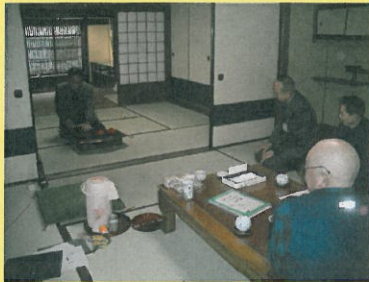
会のシステム



- ◆ 飛び入りさん、常連さん、世話人で構成
- ◆ 7月、10月以外の第3日曜日の午後を実施
- ◆ 時節にあった話題からスタート
- ◆ 毎月違ったお茶と茶菓子が出される。
- ◆ 細々とブログで活動報告。

3. 活動内容

活動風景



記念すべき第一回、
Mr.ケーシーによるお座敷芸(手品)



松山の歴史愛好家や

まちづくりに関心を持つ
市外の方が訪れてます。

最近の傾向

◆体験メニュー登場

- ・検皮細工(鍋敷程度の簡単なもの)
- ・木の鎖づくり(ニンジンで代用)

◆空家に住みたいという相談増

- ・短期滞在の拠点にしたい
→常連さんを紹介、度々訪れるように。
- ・ギャラリースペースを探している
→情報を提供するも叶わず。

◆卒論のため松山を調査している学生の参加

- ・概要を紹介し、各団体のメンバーにつなぐ

◆…ひとりになることが増えました

- ・千軒舎で読書をする。
- ・千軒舎の管理人さんと雑談する。
- ・天気がよければ、草抜き。

3. これからの課題

この会の役割

- ・「うち」と「そと」の人をつなぐ
- ・「うち」の人どうしの風通しを良くする
- ・宇陀松山のソフト面充実のヒント探し

「暮らし」はいろんなファクターを持つ
…がゆえに、広くて深い。

負担に感じない活動の継続

- ・活動人口の確保
- ・テーマの整理と絞込み

宇陀松山の勝手口として

- ・お気軽に立ち寄れる雰囲気
- ・参加した人の性分にあう団体への橋渡し
- ・あまり目立たない

